トステム株式会社

リビング建材 床材
ハーモニアスシリーズ（根太工法）
床暖房対応タイプ

施工上のお願い

●不具合の原因となりますので、下記事項をお守りください。

施工前のお願い

●施工前に各部材を必ず検品してください。製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買い上げ店までご連絡ください。施工後の色調不具合・キズなどによる交換は、お受けできませんのでご了承願います。
●水がかかったり、直射日光のあたる場所に置かないでください。ソリ・ねじれなどの原因になります。
●本製品は、屋内用です。土足で使用する場所や水がかかったり、極端に湿度が高い所には使用できません。濡れた場合は、すぐに乾いた布でふき取り、乾燥させてから養生してください。基材のフクレやソリ・ねじれの原因となります。
●コンクリート下地に床下地組み（乾式二重床など）をする場合は、コンクリート含水率が10％以下となるよう乾燥させてください。（ポリシートの四周を布テープ止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後シート下のコンクリート面が黒く変色していない程度）処理が十分でないと床材が床下からの湿気を吸い、フクレを生じたり床材裏面にカビが発生する原因となります。
※土間暖房、コンクリート埋設型の床暖房など、床下に暖房システムを組込む際は特にご注意ください。
●張合わせは3尺ずらしのレンガ張りをお勧めします。
●床材には防虫処理をしていません。必要に応じて躯体、木部および床材に防虫処理してください。虫による食害のおそれがあります。
●素材タイプは、耐水性を高めた床材ですが、常時水に濡れる場所には使用しないでください。表面のシミ・変色・くされの原因になります。

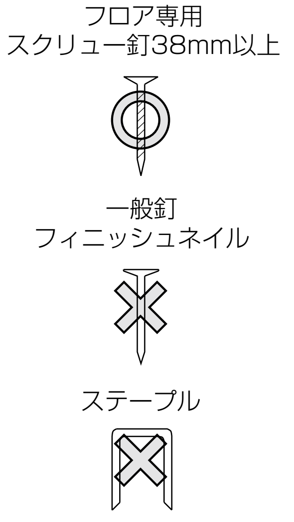
施工上のお願い

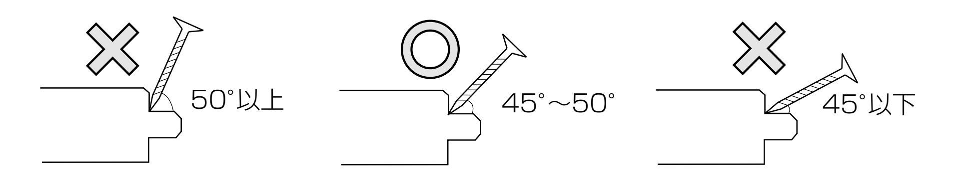
1 根太（下地）について

●45mm角以上で含水率15％程度の乾燥した、ソリ・ねじれのない、プレーナーがけされた表面平滑なものを使用してください。段違いやソリ・床鳴りの原因になります。
●根太面は段差がないようレベル出しを行ってください。
●根太間隔は303mm以下とし、木口継ぎする部分の下に根太がくるようにしてください。
●ピアノ、冷蔵庫などの重量物を置く部分は、根太間隔を詰めるか下地張りなどの方法で補強してください。

2 下地への固定

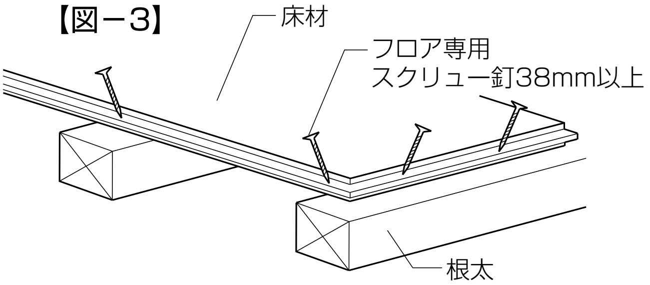
●床鳴り、浮上がりを防ぐため、根太上に接着剤を塗布し、フロア専用スクリュー釘（38mm以上）で根太へ固定してください。フィニッシュネイルやステープルは使用しないでください。サネ割れや固定強度の低下の原因となります。【図－1】
●接着剤は、別売りの床施工用接着剤（LZZZZ036）をお勧めします。
●釘を打つ角度は45°～50°で打ってください。釘頭はポンチで沈め打ちしてください。釘打ち角度が低くなりますと、表面フクレの原因となります。【図－2】
●床材の寄せ、はめ込みの際には、表面やサネをキズ付けないよう、当て木を使用してください。
●サネ部はたたき込み過ぎないようにしてください。段違いや床鳴りの原因になります。

【図－1】


【図－2】


●床材のソリや突上げを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。【図−3】
●接着剤がはみ出た場合は、石油ベンジンを布にしみ込ませてふき取ってください。

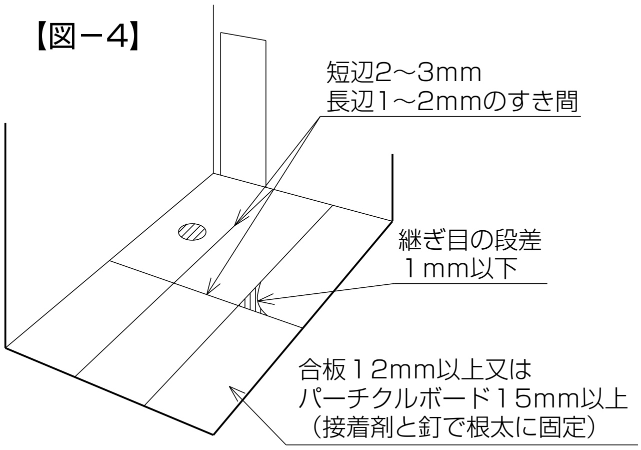
【図−3】



3 木質パネルを捨て張りする場合

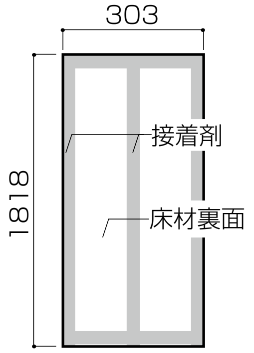
●捨て張り材の厚みは合板で12mm以上、パーチクルボードで15mm以上としてください。
●捨て張り材は水平で段差のないように施工してください。段差は1mm以内としてください。
●捨て張り材の継ぎ目は合板で2mm程度、パーチクルボードで4mm程度を目安としてすき間をあけてください。突合わせにすると床鳴りの原因になります。【図−4】
●捨て張り材が濡れていたり、含水率が高い状態で床材を施工しないでください。水分が床材に移行して突上げなどの不具合の原因になります。
●床材と捨て張り材の継ぎ目は同位置にならないよう、縦・横とも100mm以上ずらしてください。段差の発生や床鳴りの原因になります。

【図−4】



●床材の固定には接着剤を併用し、フロア専用スクリュー釘（38mm以上）で根太位置を狙って打込んでください。床材と捨て張り材のみの固定ではソリ・床鳴りの原因となります。フィニッシュネイルやステープルは使用しないでください。サネ割れや固定強度の低下の原因となります。【図−1】
●釘を打つ角度は45°〜50°で打ってください。釘頭はポンチで沈め打ちしてください。釘打ち角度が低くなりますと、表面フクレの原因となります。【図−2】
●接着剤は、右図の位置に塗布してください。【図−5】
●床材のソリや突上げを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。【図−3】
●接着剤がはみ出た場合は、石油ベンジンを布にしみ込ませてふき取ってください。

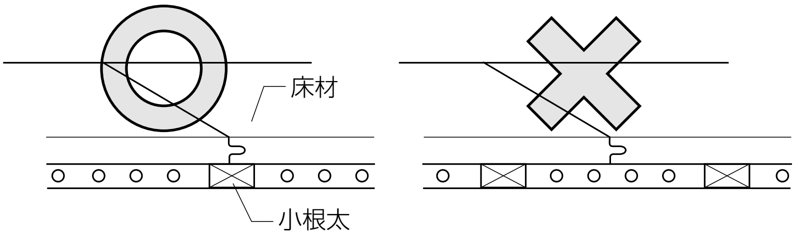
【図−5】



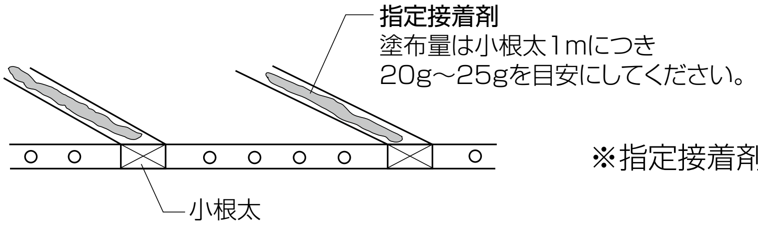
塗布量：床材1枚当たり
150〜200g

4 床暖房用仕上げ材として使用する場合

①床材の継ぎ目（短辺方向）は必ず小根太上にくるようにして寸法出しをしてください。
※小根太の間隔は1尺（303mm）が基本となります。

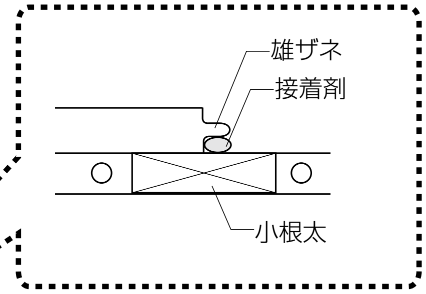


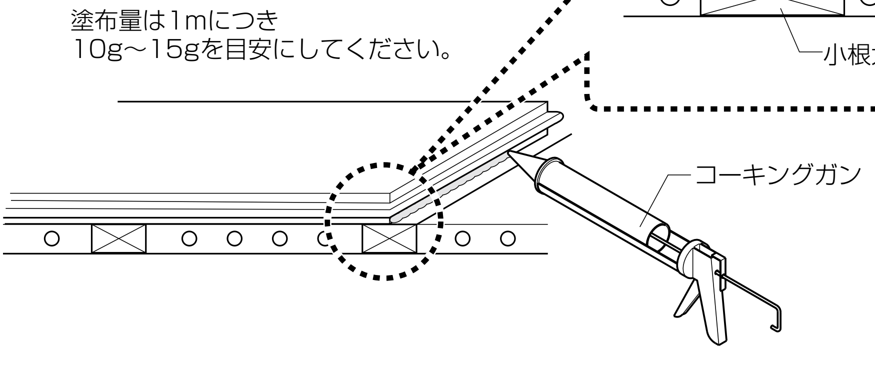
②小根太上には指定接着剤を塗布してください。



※指定接着剤：床施工用接着剤（LZZZZ036）

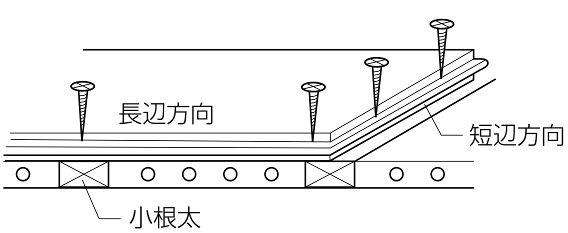
③指定接着剤を短辺方向の雄ザネの下部に塗布してください。
※短辺方向に接着剤を塗布しませんと目スキ、床鳴りの原因となります。
※サネボンドは同梱されておりませんので、指定接着剤を別途手配してください。





④床材は短辺方向、長辺方向に釘を打って根太に固定してください。（短辺方向2本、長辺方向各根太1本計7本）特に、短辺方向に釘を打ちませんと目スキの原因になります。
※釘はフロア専用スクリュー釘（38mm以上）をご使用ください。釘を打つ角度は45°～50°が適当です。「根太以外の部分」、小根太付きマットの「小根太以外の部分」、又は、その他床暖房システムの「釘打ち禁止部」には釘を打たないでください。

・短辺方向の釘：2本
・長辺方向の釘：7本（各根太1本）
・フロア専用スクリュー釘38mm以上
（ステープル、フィニッシュネイルは固定強度が低下しますのでおやめください。）



上記施工方法以外の方法で施工された場合の目スキ・床鳴りなどの不具合は、責任を負いかねる場合があります。

施工後のお願い

●施工後は、木クズ・砂・ゴミを完全に取除き、養生シートやベニヤなどですき間なく養生してください。その際、必ず別売りの養生テープ（LZZZZ004）をご使用ください。市販のガムテープなどは粘着力が強いため、表面材のハガレの原因となります。
●施工中、雨の吹込みにより、床材の表面が濡れたままになると、フクレやソリの原因になります。濡れたまま放置することはお避けください。
●汚れのひどいときは、固く絞った濡れぞうきんでふくようにしてください。その後、乾いた布でふいてください。
●この床材は表面に汚れが付着しにくいよう、特殊処理を施していますのでワックスがけは不要ですが、ワックスがけも可能です。
●ワックスがけをする場合は、木床用の樹脂系ワックス（リンレイ：オール、ハイテクフローリングコート）をご使用ください。
●ご使用の際は、直接床にまかずに、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。
●ワックスの使用方法を誤ると床材表面に異常を起こす場合がありますので、その他の使用方法については、容器記載の使用方法をよくお読みください。
●気温が低いときにワックスを塗布したり、ワックス塗布面にお湯などをこぼすと、ワックスが白化する場合があります。白化した場合は、ワックスを除去してください。
●ワックスはくり剤および溶剤（特にシンナーなどのトルエン・アセトン類を含むもの）は使用しないでください。表面材を傷める原因となります。
●この床材は表面に特殊処理を施していますので、指定ワックス以外のコーティング処理を行った場合、コーティングがはがれる場合があります。指定ワックス以外のコーティング処理により生じた不具合については責任を負いかねますのでご了承ください。